

自由で不安な生活を送っています。今回の大震災で犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、大震災の発生時より、救援・復興活動に献身的な努力をされているすべての方々に心より敬意を表します。

今回の大震災からの復旧・復興のためには、国民各層のあらゆる叡智を結集する必要があります。TCER では、経済学の研究者として私たちも多くの人々とともに大震災からの復旧・復興の手助けをしたいという思いから、大震災発生直後の昨年度末に理事およびフェローの有志を中心にして、公益財団法人における最先端学術研究支援事業の一つとして「緊急課題対応プロジェクト事業（特別プロジェクト）」を立ち上げました。2011 年度も引き続き特別プロジェクトを実施し、経済学の立場から復旧・復興のための提言をするための研究を行っています。この特別プロジェクトは、マクロ経済学、財政学、国際経済学、雇用・社会保障・医療・教育、エネルギー政策・産業政策、国土計画の六つの研究チームから構成され、7月中旬より新聞等さまざまな情報媒体を通じて広く社会に研究成果を発信する予定です。

大震災において、被災者の方々が互いに協力して助け合う姿や大災害から立ち上がろうとする勇気と冷静で秩序ある行動は、国内だけでなく国際社会にも大きな感銘を与えました。一方、わが国の社会、経済、政治システムの脆弱さと劣化も同時に明らかになりました。わが国が今回の大震災から復興して「真に豊かで幸福な社会」として再生するために、経済学の先端的な研究センターである TCER の役割は大きいと思います。今後ともフェローの皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

岡田章(代表理事・一橋大学)

(2) 2011年度前半の理事会報告

2011 年度第 1 回理事会は、2011 年 5 月 26 日（木曜日）午前 11 時～13 時、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。平成 22 年度(平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)の事業報告及び会計報告書が承認されました。東日本大震災に対応し緊急課題対応プロジェクト事業（内容は代表理事挨拶の通り）を立ち上げたため予算補正を行い、平成 23 年度収支補正予算書が承認されました。研究助成に関する規程が改定されました。フェローの新規加入が承認されました。

(3) 2011年度前半の評議員会報告

2011 年度第 1 回評議員会は、2011 年 6 月 13 日（月曜日）午前 9 時 20 分～10 時、日本工業倶楽部で開催されました。平成 22 年度(平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの事業報告及び会計報告書、平成 23 年度収支補正平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日までの事業報告及び会計報告書、平成 23 年度収支補正予算書が承認されました。

(4) 2011年度研究助成決定のお知らせ

2008年度より再開されました本研究助成制度は、経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することが目的として設立されたものです。公益法人への移行に伴い、これまで研究員のみと限ってきました応募資格を2009年度よりオープンにすることになりました。2011年度のTCER研究助成は7件の応募があり、4件に助成することに決定いたしました。

(5) 東日本大震災に対応した緊急課題対応プロジェクトの経過報告

代表理事挨拶にも紹介されていますように、東日本大震災からの復興へ向けて経済学の視点からの分析・政策提言を取りまとめるべく、「緊急課題対応プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは六つの研究チームから構成され、7月19日から日本経済新聞ゼミナール欄に掲載中です。

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 東アジア研究交流事業 (2011年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー) 報告

2011年度 NBER - TCER 共催の第22回東アジアセミナー (East Asian Seminar on Economics) は、2011年6月24日、25日の日程で北京大学にて開催されました。今年度のテーマは、「政府の役割」(The Role of Government) でした。中韓の政府系投資ファンドの役割、米の電力規制緩和の結果としての原子力発電所の効率化などが特に印象的だったと報告を受けました。TCERからは、伊藤隆敏 (東京大学) がオーガナイザーおよび討論者として参加、近藤絢子 (法政大学) が著者として参加、細野薫 (学習院大学)、野口晴子 (国立社会保障・人口問題研究所) が討論者として参加しました (敬称略)。プログラムは下記のとおりです。

Friday, June 24:

Session 1. International Finance and Trade

9:00 am

Qingyuan Du, Columbia University

Shang-Jin Wei, Columbia University and NBER

A Darwinian Perspective on the Chinese Exchange Rate

Discussants: Francis Lui, Hong Kong University of Science and Technology

Jianguo Xu, CCER

10:00 am

Martin Berka, Massey University

Michael Devereux, University of British Columbia and NBER

What Determines European Real Exchange Rates?

Discussants: Andrew Rose, University of California at Berkeley and NBER

Shang-Jin Wei, Columbia University and NBER

11:00 am Break

11:15 am

Yi Wen, Tsinghua University

Making Sense of China's Excessive Foreign Reserves

Discussants: Takatoshi Ito, University of Tokyo and NBER

Yiping Huang, CCER

12:15 pm Lunch

1:30 pm

Woochan Kim, KDI School of Public Policy and Management

Korea Investment Corporation: Its Origin and Evolution

Discussants: Ludwig Linbo He, China Investment Corporation

Yiping Huang, CCER

2:30 pm Break

2:45 pm

Binkai Chen, Central University of Finance and Economics

Yang Yao, CCER

The Cursed Virtue: Government Infrastructural Investment and Household Consumption in Chinese Provinces

Discussants: Renato Reside, University of the Philippines

Mark Spiegel, Federal Reserve Bank of San Francisco

Session 2. Financial Markets, Consumption and Taxation

3:45 pm

Hyung-Kwon Jeong, Bank of Korea

Sung Wook Joh, Seoul National University

Risk Taking of “TBIF” Banks in a Concentrated Market: Evidence from Surviving Banks
after a Financial Crisis

Discussants: Kaoru Hosono, Policy Research Institute, Ministry of Finance
Renato Reside, University of the Philippines

4:45 pm Adjourn by Bus

Saturday, June 25:

8:30 am

Zvi Bodie, Boston University

Joseph Cherian, National University of Singapore

Chua Wee Kang, National University of Singapore

Worry-Free Inflation-Indexing for Sovereigns: How Governments can Effectively Deliver
Inflation-Indexed Returns to their Citizens and Retirees

Discussants: Kaoru Hosono, Policy Research Institute, Ministry of Finance
Qing Liu, Tsinghua University

9:30 am

Chong-En Bai, Tsinghua University

Binzhen Wu, Tsinghua University

Payroll Tax and Household Consumption

Discussants: Martin Berka, Massey University
Bruce Meyer, University of Chicago and NBER

10:30 am Break

10:45 am

Bruce Meyer, University of Chicago and NBER

James Sullivan, University of Notre Dame

Consumption and Income Inequality in the U.S. Since the 1960s

Discussants: Lucas Davis, UC, Berkeley and NBER
Yongheng Deng, National University of Singapore

11:45 am

Shin-Horng Chen, CIER

Meng-chun Liu, CIER

Pei-Chang Wen, CIER

The ECFA and Its Effect on Cross-Strait Trade and Investment: A Taiwanese Perspective

Discussants: Somkiat Tangkitvanich, TDRI

Miaojie Yu, CCER

12:45 pm Lunch

Session 3. Regulated Industries (Nuclear, Health Care)

2:00 pm

Lucas Davis, UC, Berkeley and NBER

Catherine Wolfram, UC, Berkeley and NBER

Deregulation, Consolidation, and Efficiency: Evidence from U.S. Nuclear Power

Discussants: Somkiat Tangkitvanich, TDRI

Jintao Xu, Peking University

3:00 pm Break

3:15 pm

Ayako Kondo, Osaka University

Hitoshi Shigeoka, Columbia University

Effects of Universal Health Insurance on Health Care Utilization and Health Outcomes:

Evidence from Japan

Discussants: Janet Currie, Columbia University and NBER

Haruko Noguchi, National Institute of Population and Social Security Research

4:15 pm

Janet Currie, Columbia University and NBER

Erdal Tekin, Georgia State University and NBER

Is the Foreclosure Crisis Making Us Sick?

Discussants: Yongheng Deng, National University of Singapore

Haruko Noguchi, National Institute of Population and Social Security Research

(2) 環太平洋地域研究交流事業 (2011 年度アジア危機コンファレンス) 報告

2011 年度環太平洋地域研究交流事業として行われた「アジア危機コンファレンス」

は、2011年6月24日（金）と25日（土）の両日、韓国釜山のプサン国立大学で APEA コンファレンスの特別セッションとして行われました。TCER の特別セッションでは、河合正弘アジア開発銀行研究所所長が、“Implications of the triple disasters for Asia” というテーマで日本の大震災が日本経済およびアジア経済に及ぼす影響について、詳細なデータ分析の紹介と問題提起を行った後、関連テーマに関して参加者と議論を行いました。

1997年のアジア通貨危機や2008年の世界金融危機を経験した東アジア経済は、その後順調に回復を示したものの、危機の再発防止に向けた分析やそのための制度設計は依然として重要な研究テーマです。当時の経済危機はきわめて深刻なものであり、その教訓はそれまでの東アジアの経済システムの是非を含めて数多くの論争を生み出しています。そうしたなかで、今回の日本の大震災がいかなる影響を及ぼすかについては、参加者の関心も非常に高いものでした。コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に世界各国から経済学者が参加し、東アジア諸国が直面する重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論が展開され、有意義なものとなりました。

コンファレンスには、TCER から福田慎一（東京大学）、塩路悦朗（一橋大学）、櫻川昌哉（慶応義塾大学）、竹田陽介（上智大学）らが参加しました（敬称略）。また、コンファレンス全体の詳細は、<http://www.apeaweb.org/confer/bus11/index.htm> で閲覧可能です。

公2 学術研究交流促進事業

(1) 国際学術研究機関交流事業（2011年度 NERO コンファレンス）報告

2011年度 NERO コンファレンスは、2011年6月20日、パリの OECD 本部で開催され、TCER からは神林龍（一橋大学）が出席しました（敬称略）。本年度のトピックは労働市場であり、セッション毎にいくつかの発表が行われ、活発な討議が行われました。参加人数は30人前後で、9時より17時までほぼ予定通りに進められました。

参加者の神林氏からは次のような意見を頂戴しました。

会議前半は最近の経済危機に対する労働市場の反応について、OECD 全体や各国の経験（米国、英国、カナダ、チェコ、オランダ）を報告するものが中心となった。金融危機直後は世界恐慌の再来といわれたものの、各国の労働市場の反応はそれほど深刻ではなく、むしろ回復が遅れていることが問題視された。この労働市場の反応には諸制度が関わっていることが OECD より指摘されたものの、各国にはそれぞれ、2000年代から持続する変化が根底にあることが相次いで報告され（たとえば米国では労働参加率が2000年前後から持続的に下落し続けている）、皮相な制度分析では原因がつかめないことが示唆された。もっとも、日本、ドイツ、フランスや北欧など主要国に関する報告が欠け、全体像を見渡すには不足したラウンドだった。後半は特定国の労

働市場に関する報告が中心で、ブラジルの最近の動向やアイルランドでの職業訓練効果に関する検証報告など目新しいものも散見された。

しかし1日で16本の報告、30分で立ちながらサンドイッチをほおぼる昼食という強行日程のわりに、オリジナルな学術論文の報告だったのは数本にとどまった。各国の経済シンクタンクが集まるという性格上、近年、とくに金融危機後の動向についてのサマリーが求められていたのかもしれない。報告者の力量不足もあり十分なコミュニケーションがとれたとは言い難いのが反省点だろう。会議のプログラム、発表論文は次の通りです。

09:00-09:15 Introduction

09:15-12:15 Round 1: Labour markets in the crisis

1.1. Cross-country presentations

[09:15-10:45; each presentation lasts 15-20 minutes followed by 10-15 minutes discussion]

Alain de Serres, OECD

Labour market adjustments to the crisis

Karl Aiginger, WIFO

Differences in labour market performance in the crisis

Paul Swaim

OECD income support policies during the crisis

1.2. Country-specific presentations

[10:45-12:15; each presentation lasts 10-15 minutes followed by 0-10 minutes discussion]

Alexandre Mas, NBER

The US labour market in the current crisis

Jonathan Portes, NIESR

Youth unemployment in the UK in the crisis

Bill Robson, CD Howe

The Canadian labour market in the recent crisis

Lubomir Lizal, CERGE-EI

Czech firm-level labour demand in the crisis

Rob Euwals, CPB

Dutch labour market adjustment in the recent crisis

Sandwich lunch (30 minutes)

12:45-14:45 Round 2: Policy reform going forward

[Each presentation lasts 15-20 minutes followed by 10-15 minutes discussion]

Alain de Serres, OECD

Policies to prevent unemployment persistence

Didier Blanchet, INSEE

Low-wage policies

Alexandre Mas, NBER

Effectiveness of active labour market policies

Philip O'Connell, ESRI

Activation and training programmes

14:45-16:15 Round 3: Specific labour market issues

[Each presentation lasts 15-20 minutes followed by 10-15 minutes discussion]

Fernando de Holanda Barbosa Filho, FGV

The labour market in Brazil

Rob Euwals, CPB

Labour market flexibility in the Netherlands

Ryo Kambayashi, TCER

Long-term employment and job security in the United States and Japan

Hélène Périvier, OFCE

Gender effects of the economic crisis on the labour market in six European countries

16:15-16:45 Round 4: Wrapping up

Background papers:

Aiginger, K. (2011), Why performance differed across countries in the recent crisis: how country performance in the recent crisis depended on pre-crisis conditions

Card, D., J. Kluve and A. Weber (2010), Active labour market policy evaluations: a meta-analysis

Kambayashi, R. and T. Kato (2011), Long-term employment and job security over the last twenty-five years: a comparative study of Japan and the U.S.

(2) TCER 定例研究会 (2010 年度 TCER 研究会) 報告

2011 年度の TCER 研究会は一橋大学にて、一橋大学の経済理論ワークショップ、国際貿易・投資ワークショップ、産業・労働ワークショップ、マクロ・金融ワークショップ

との共同開催の形で開催されます。各ワークショップの開催予定は
http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/news/seminar_list.html
に最新の情報が 있습니다 (このリンクは一橋大学経済研究所で開催される全ての研究会
が掲載されています、TCER 研究会とは直接関係のない研究会も含まれていますのでご
注意ください)。

日時 2011/3/7 (月) 10:30~

場所 磯野研究館 3階 第1研究小集会室

報告者 脇 雄一郎氏 (ミネソタ大学大学院生)

題名 "Efficient Risk Sharing under Endogenous Skill Formation: Quantitative Implications"

日時 2011/4/7 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館3階 研究集会室

報告者 田中知美氏 (Arizona State University)

題名 "Exchange Economies with Indivisibilities and Finitely Many Agents" (with Marcus Berliant)

日時 2011/4/19 (火) 16:30~18:00

場所 第2研究棟2階

報告者 齋藤哲哉氏 (ニューヨーク州立大学バッファロー校)

題名 "Urbanization Increases the Velocity of Money: A Money-Search Model and Evidence"

日時 2011/4/21 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 石川竜一郎氏 (筑波大学)

題名 "Beauty Contests and Asset Prices under Asymmetric Information" (with Noritaka Kudoh)

日時 2011/4/28 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 奥井 亮氏 (京都大学経済研究所)

題名 "The Binarized Scoring Rule of Belief Elicitation" (with Tanjim Hossain)

日時 2011/5/10 (火) 16:30~18:00

場 所 第2研究棟2階

報告者 澤田 充氏 (日本大学)

題 名 "Interbank Networks in Prewar Japan: Structure and Implications"
(coauthored with Tetsuji Okazaki)

日 時 2011/5/12 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 小原一郎氏 (UCLA)

題 名 "On Collusion in Bertrand Competition"

日 時 2011/5/17 (火) 16:30~18:00

場 所 第2研究棟2階

報告者 Worawat Margsiri (Fordham University)

題 名 "The Impact of Holdup Problems in Early Supplier Involvement on New Product
Development Preference"

日 時 2011/5/19 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 宇井貴志氏 (横浜国立大学)

題 名 "Global Games and Ambiguous Information: An Experimental Study"

日 時 2011/5/24 (火) 16:30~

場 所 経済研究所 4階 共同研究室

報告者 澤田康幸 (東京大学)

題 名 "How is Consumption Smoothed against Income and Asset Shocks Induced by
an Earthquake? The Case of the Chuetsu Earthquake" (with Hidehiko Ichimura and
Satoshi Shimizutani)

日 時 2011/5/26 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 高宮浩司氏 (新潟大学)

題 名 "Complexity Consideration on the Existence of Strategy-Proof Social Choice
Functions"

日 時 2011/5/31 (火) 16:30~18:00

場 所 第2研究館 2階

報告者 Marcus Asplund (Royal Institute of Technology, Professor)

題名 "Did the Swedish Tobacco Monopoly set Monopoly Prices?"

日時 2011/6/7 (火) 16:30~

場所 経済研究所 4階 共同研究室

報告者 堀井 亮氏 (東北大学)

題名 "Natural Disasters in a Two-Sector Model of Endogenous Growth: An Extension to Non-Insurable Risks" (with Masako Ikefuji)

日時 2011/6/9 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 林 貴志氏 (テキサス大学オースティン校)

題名 "Consistent Updating of Social Welfare Functions"

日時 2011/6/14 (火) 16:30~18:00

場所 第2研究棟 2階

報告者 植杉威一郎 (一橋大学)

題名 "Effects of a Mega Bank Merger on the Borrowing Costs and Firm-bank Relationships" (coauthored with Taisuke Uchino)

日時 2011/6/16 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 森本脩平氏 (大阪大学大学院博士課程)

題名 "Ascending Auction with Income Effect: Strategy-proof and Efficient Allocation Rules of Heterogeneous Indivisible Goods" (joint with Shigehiro Serizawa)

日時 2011/6/21 (火) 16:30~

場所 経済研究所 4階 共同研究室

報告者 柳川範之氏 (東京大学)・平野智裕氏 (東京大学)

題名 "Asset Bubbles, Endogenous Growth, and Financial Frictions"

日時 2011/6/21 (火) 16:30~18:00

場所 第2研究棟 2階

報告者 中嶋 亮氏 (横浜国立大学)

題名 "Localized Knowledge Spillovers and Patent Citations: A Distance-based

Approach" (with Yasusada Murata, Ryosuke Okamoto, Ryuichi Tamura)

日時 2011/7/5 (火) 16:30~

場所 経済研究所 4階 共同研究室

報告者 Robert Dekle (University of Southern California)

題名 "A Quantitative Analysis of China's Structural Transformation" (with Guillaume Vandebroucke)

日時 2011/7/5 (火) 16:30~18:00

場所 第2研究棟 2階

報告者 中島賢太郎氏 (東北大学)

題名 "Transactions as a Source of Agglomeration Economies: Buyer-Seller Matching in the Japanese Manufacturing Industry"

日時 2011/7/12 (火) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 小集会室

報告者 杉田洋一氏 (Stockholm School of Economics)

題名 "Matching, Quality, and Comparative Advantage: A Unified Theory of Heterogeneous Firm Trade"

日時 2011/7/14 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 鈴木彩子氏 (早稲田大学)

題名 "Asymmetric Bidding and Participation Between Incumbents and Entrants in Electric Power Procurement Auctions"

日時 2011/7/19 (火) 16:30~

場所 経済研究所 4階 共同研究室

報告者 宮川 努氏 (学習院大学)

題名 "Product Switching and Firm Performance in Japan? Empirical Evidence in the Japanese Manufacturing Sector - "

日時 2011/7/21 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3階 研究集会室

報告者 三浦慎太郎氏 (ワシントン大学セントルイス大学院博士課程)

題名 "Manipulated News: Electoral Competition and Mass Media"

日時 2011/7/21 (木) 16:30~18:00

場所 マーキュリータワー 5階 会議室

報告者 Richard Baldwin (Graduate Institute of International and Development Studies)

題名 "Gravity Chains: Estimating the gravity model when trade in parts is important"

(3) ミクロ経済分析事業 (2011 年度 TCER ミクロコンファレンス) ご案内

2011 年度の TCER ミクロコンファレンスは、第 17 回ディセントラライゼーションコンファレンス (DC) との共催で、9 月 16 日 (金)、17 日 (土) の 2 日間、筑波大学にて開催されます。例年、日本経済学会秋季大会の前日に開催されてきましたが、本年度は震災に伴う節電に対応して日本経済学会が 10 月末に延期となりました。そこで、10 月には多くの大学で新学期が始まっていることから、日本経済学会への参加が日程上困難な方々のご要望に応え、今年度の TCER コンファレンスは 9 月に 2 日間の予定で開催することになりました。

TCER コンファレンスの投稿募集サイトの URL は次の通りです。

<http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~naoki50/17thDC-CallforPapers.html>

投稿締切は 8 月 9 日 (火) です。発表論文の投稿だけでなく、コンファレンスへのご参加を歓迎いたします。参加人数確認のため、参加を予定されている方はメールでの事前登録をお願いいたします。メールの件名を「DC 参加登録」として、渡邊まで、氏名、所属、連絡先メールアドレスをお知らせください。以上、プログラム委員を代表して、ご案内申し上げます。

渡邊直樹 (オーガナイザー) 筑波大学システム情報工学研究科

naoki50@sk.tsukuba.ac.jp

(4) マクロ経済分析事業 (2011 年度 TCER マクロ・コンファレンス) ご案内

1999 年以来、年に 1 回 TCER マクロ・コンファレンスが開催されています。2011 年度の第 13 回 TCER マクロ・コンファレンスは、11 月 26 日 (土)、27 日 (日) に東京 (慶応義塾大学) で開催することになりました。

資金提供者は、TCER (東京経済研究センター)、一橋大学物価研究センター、慶應義塾大学 GSEC 研究所、大阪大学経済学研究科・社会経済研究所等の「人間行動と社会経済のダイナミクス」に関するグローバル COE の 4 機関であり、幹事は慶應義塾大学経済学部 櫻川昌哉、一橋大学経済研究所 阿部直人、大阪大学社

会経済研究所 チャールズ・ユウジ・ホリオカの3名です。

テーマは特に定めず、マクロ関連の論文であれば、理論でも、実証でも、日本に関するものでも、外国に関するものでも良く、広く募集いたします。なお、8月中に応募を開始し、10月から11月にかけて、採択論文を選考する予定です。例年通り、60名くらいの参加を予定しています。

編集後記

2011年3月11日の東日本大震災の直後、“不要不急”という言葉をよく聞きました。不要不急の買い物を控える（水など買いためしない）、不要不急の外出を控える（急ぎでない仕事は控える）などでした。セミナーや研究会等が中止・延期・キャンセルとなり、自分の仕事について再考した経済学者も多かったのではないのでしょうか。

今、震災からの経済復興を考える時期になりました、経済学者の意見は必要不可欠です。TCERも緊急課題対応プロジェクト事業を立ち上げ、復興へ向けて経済学の視点からの分析、政策提言を行っています。経済学者であることを自負し、日本の将来のために活動したいと思う日々です（K.H.）。

Newsletter に関するご意見やご感想は、代表理事 岡田章 aokada@econ.hit-u.ac.jp または
総務理事原田喜美枝 kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp までご連絡下さい。

=====
公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcerc@mb.sphere.ne.jp